



シアターサウンド・スピーカシステム

NS-P300

取扱説明書

このたびはヤマハNS-P300シアターサウンド・スピーカシステムをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

YST(ヤマハ・アクティブ サーボ テクノロジー)方式によるすぐれたサウンドを存分にお楽しみください。

ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

お読みになった後は保証書と共に大切に保管してください。

このNS-P300はメイン(NS-M103)、エフェクト(NS-E103)、センター(NS-C103)、サブウーファ(SW-P30)スピーカからなるスピーカシステムです。

目次

| | |
|--------------------------------|----|
| 安全上のご注意(安全に正しくお使いいただくために)..... | 2 |
| ご使用上の注意..... | 4 |
| 設置について..... | 5 |
| 接続のしかた..... | 8 |
| 各部の名称とはたらき(SW-P30背面)..... | 12 |
| 音量バランスの調節..... | 13 |
| 故障かなと思ったら..... | 14 |
| 仕様..... | 15 |
| 保証とアフターサービス..... | 16 |



保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などの記入がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合、実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

アクティブ サーボ テクノロジーとは

サブウーファSW-P30は、アクティブ サーボ テクノロジーを使ったスーパーウーファーシステムです。アクティブ サーボ テクノロジーとは、スピーカのボイスコイルの電気抵抗を打ち消す働きをするアンプと、ポート内の空気を共鳴させて低音域を再生するエンクロージャ(ヘルムホルツの共鳴箱)との組み合わせにより、低音域の再生を強力にするスピーカシステムです。

ポート内の空気を共鳴させて低い音を出すには、大きな力が必要になります。そのためにはスピーカの駆動力や制動力を強くすれば良いわけですが、この駆動力や制動力はボイスコイルの電気抵抗で制限されます。SW-P30に内蔵されているアンプは、従来のアンプとは異なり、ボイスコイルの抵抗分を打ち消すことができます。したがってポート内の空気を十分に共鳴させることができ、良質でパワフルな低音域の再生が可能となります。

安全上のご注意 (安全に正しくお使いいただくために)

ご使用前に必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。またお読みになったあと、いつでも見られる所に必ず保存してください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例



△ 記号は注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。



⊘ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。



● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



スピーカーシステム:共通



機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。



スピーカーコードは必ず固定してください。コードを足や手に引っかけ、スピーカーが破損する原因となることがあります。また、壁に掛けて使用している場合、落下などでけがをする恐れがあります。



風呂場で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

NS-M103:



本機は自由に角度を変えることができます。重心移動により不安定な設置にならないようお気をつけください。



ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

SW-P30:



本スピーカーシステムを使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流 DC 電源には接続したり、表示された電源電圧交流100V以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。



内部に万一水や異物が入った場合は、まず電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



電源コードの上に重いものをのせたり、コードが下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。



万一、煙が出ている、変なにおいや音をするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。



機器の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。



電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。



万一、機器を落としたり、損傷した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

| NS-C103: | |
|---|---|
| 本機の重量は2kgあります。付属のすべり止めテープを使用せずにそのままテレビの上に置かないでください。 | テレビや本機をぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。テレビが倒れたり、テレビの上に設置した本機が落下すると大けがをする原因になります。 |
| 設置後は必ず安全性を確認してください。またその後、定期的に落下の可能性がないか安全点検を実施してください。設置箇所、設置方法の不備による事故などの責任は、当社では一切負いかねますのでご了承ください。 | 本機をテレビの上に置いたときに、本機がテレビよりはみ出してしまう場合は、テレビの上には設置しないでください。本機が落下すると、大けがや本機の破損の原因になります。 |
| NS-E103: | |
| 本機は1台の重量が1.4kgありますので、薄いベニヤ板の壁や柔らかい壁には取り付けしないでください。木ネジが抜けて本機が落下しますと、けがや本機の破損の原因になります。 | ブラケットを使用して本機を壁や天井に取り付ける場合は、必ず指定されたスピーカブラケット(別売:SPM-5)を使用してください。 |
| 壁に取り付ける場合、くぎなどの抜けやすいものは絶対に使用しないでください。長時間の使用や振動でくぎが抜けて本機が落下しますと、けがや本機の破損の原因になります。 | 取り付け後は必ず安全性を確認してください。またその後、定期的に落下の可能性がないか安全点検を実施してください。取り付け箇所、取り付け方法の不備による事故などの責任は、当社では一切負いかねますのでご了承ください。 |

| 注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。 | |
|--|--|
| 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。 | 接続する場合は、この取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。 |
| ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。 | 電源プラグを接続する前には音量(ボリューム)を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。 |
| SW-P30の電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。 | キャビネットをあけたり、分解しないでください。故障の原因になります。修理が必要な場合は、お買い上げ店にご相談ください。 |
| 直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。 | 旅行などで長期間ご使用にならないときは、安全のため必ずSW-P30の電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。 |
| 濡れた手でSW-P30の電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。 | 1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。機器の内部にほこりのたまったまま、長い間掃除しないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。 |
| SW-P30の電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ず電源プラグを持って抜いてください。 | お手入れの際は、安全のためSW-P30の電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。 |
| 移動させる場合は、SW-P30の主電源を切ってから電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 | |

ご使用上の注意

ご使用になる前に、下記の注意事項を必ずお読みください。

本体のつまみ類に無理な力を加えたり、キャビネットに重い物をのせないでください。

テストディスクや電子楽器の信号、極端に歪んだ信号を大きな音で鳴らさないでください。スピーカーの破損の原因となります。

本システムは防磁設計となっておりますがコンピュータのモニターやテレビの近くに設置すると、画像が歪むことがあります。そのような場合は、離してご使用ください。

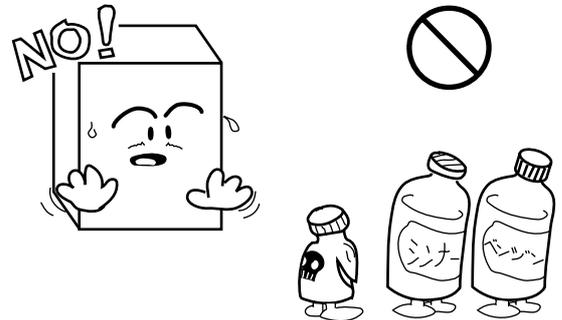
故障と思われるときはすぐにサブウーファSW-P30の電源プラグをコンセントから抜いてください。

フロッピーディスクやカセットテープなどの磁気媒体をスピーカーの近くに置かないでください。データが破損することがあります。

お手入れには

ふつうの汚れは、軟らかい布で軽く拭き取ってください。汚れがひどいときは、水で薄めた洗剤を布にふくませ、よくしぼって拭き取ってください。そのあと、乾いた布で仕上げてください。

ベンジン、シンナーなどで拭いたりすると、変質したり、塗料が剥げることがありますので使用しないでください。また、接点復活剤はご使用にならないでください。



設置について

本スピーカーシステムは、メイン・エフェクト・センター・サブウーファの合計6台のスピーカーで構成されています。それぞれのスピーカーは、通常聴く位置(視聴ポジション)から見て下図のように設置すると最も効果的な音場が得られるように設計されています。

それぞれのスピーカーの設置位置は...

メインスピーカ (NS-M103)
テレビの左右に設置します。
高さは、画面のセンターより下に設置します。

センタースピーカ (NS-C103)
画面中央の上(または下)に設置します。

エフェクトスピーカ (NS-E103)
視聴ポジションより後方に設置します。

サブウーファ (SW-P30)
メインスピーカの左右どちらかの外側に設置します。

お願い: 本機は全て防磁型設計となっておりますが、万が一テレビの近くでご使用になり色ムラなどが生じるときは、テレビとスピーカの距離を離してご使用ください。

メインスピーカ(NS-M103)

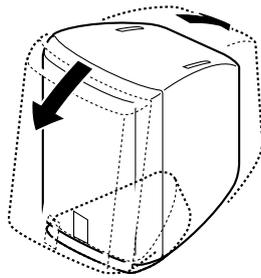
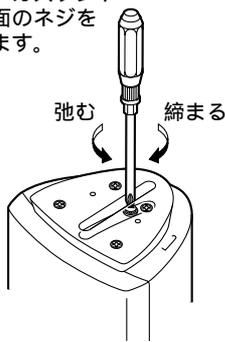
テレビの両サイドに設置し、高さはテレビ画面のセンターより下の位置に設置します。設置する場所は、ガタつきや傾きのない安定したところに設置してください。

• 視聴ポジションに合わせてメインスピーカの角度を調整することができます。

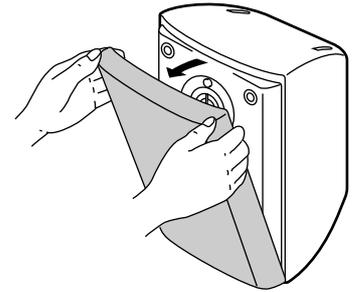
• スピーカのサラネットは取外すことができます。

1. スピーカスタンドの底面のネジを弛めます。

2. スピーカの角度を調整し、ネジを締めます。



お願い:
角度調整の際、スピーカの重心移動によって不安定な状態になることがあります。落下等おきないようにご注意ください。



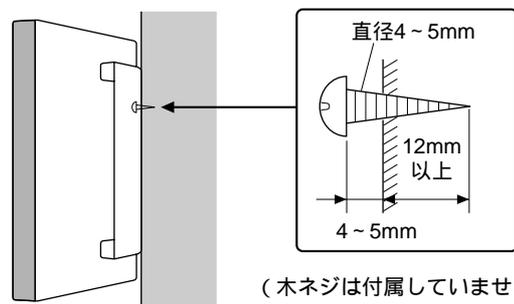
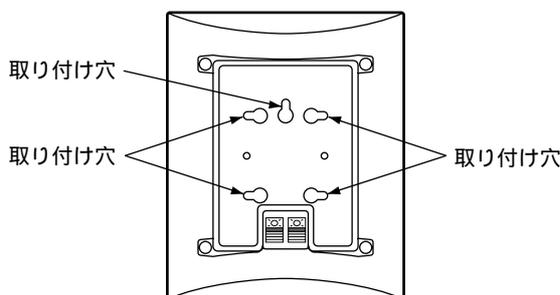
装脱着は図のように両側を持ってゆっくりとまっすぐ行ってください。

エフェクトスピーカ(NS-E103)

視聴ポジションの後方に設置します。高さは床から1.8mくらいが適当です。

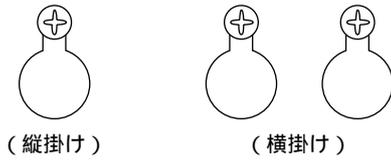
壁に掛けて使用する場合

しっかりとした壁または柱に木ネジをねじ込みそれに掛けてください。

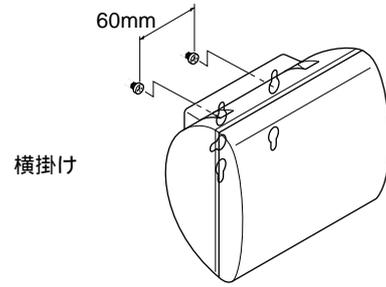


(木ネジは付属していません)

取り付け穴はスピーカ背面に5カ所あります。
 縦掛けの場合は1カ所で、横掛けの場合は2カ所の取り付け
 穴にネジを確実に引っかけてください。



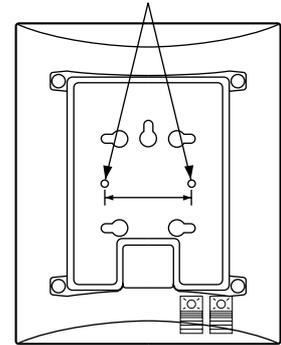
横掛けの場合、取り付ける木ネジの間隔は右図の寸法に合
 わせてください。



別売ブラケットを取り付けて使用する場合

スピーカブラケット(別売:SPM-5)を使用して取り付ける場合は、右図の
 ようにスピーカ背面の穴を使用します。取り付けは、必ずスピーカブラ
 ケットの取扱説明書にしたがって行ってください。

背面のこの2つの穴を使って、
 SPM-5(別売)を固定します。

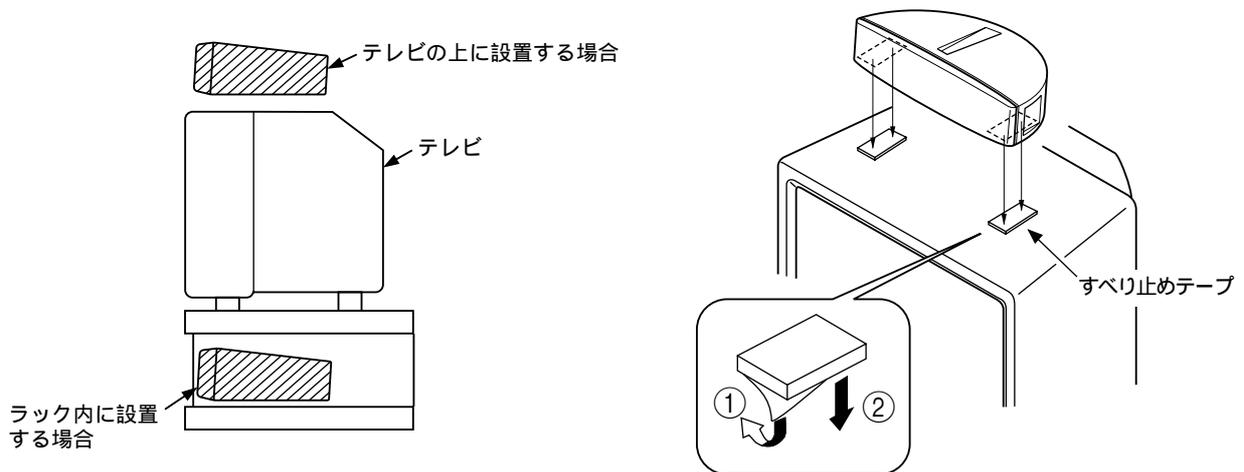


センタースピーカ(NS-C103)

設置位置はテレビ画面のすぐ上が適していますが、設置できない場合は、テレビのすぐ下でもかまいません。

テレビの上または下に設置する場合

テレビの上に設置する場合は、必ず付属のすべり止めテープ(2個)を図のようにセンタースピーカ底面とテレビの上面
 に貼り、固定してください。



サブウーファ(SW-P30)

メインスピーカの左右どちらかの外側に設置します。音が打ち消し合うことを避けるため、少し内側に向けて設置してください。(下記参考図をご覧ください。)

低音の聴こえ方は、スピーカーの設置位置や視聴ポジションによって変化します。位置をいろいろ変えてみて視聴してみてください。

サブウーファ設置上の注意

サブウーファは縦／横どちらの向きでも設置できます。本体前面および背面を下にして設置はできません。

サブウーファはパワーアンプを内蔵していますので、背面からの放熱を妨げないよう、壁から10cm以上離して設置してください。

大音量で聴くと、家具や窓ガラスが共振したり、サブウーファ自体がビリついたりすることがあります。このような場合には、少し音量を下げてご使用ください。共振防止には厚手のカーテンなどを使用すると、吸音するので有効的です。また設置位置が共振作用に大きく影響していますので、設置位置を変えてみるのも共振防止になります。

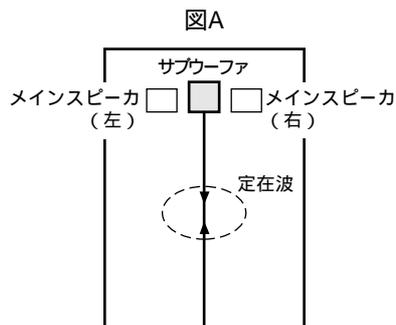
参考

超低音域は

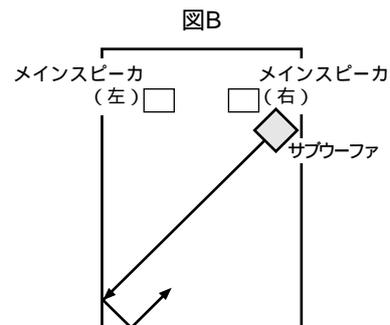
音楽信号の超低音成分は、波長が長いため、人間の耳ではあまり方向感覚がなく、無指向性に近い特性になります。したがって超低音域ではステレオ感もなくなるため、サブウーファは1台でも超低音域再生の効果は得られます。

セッティング時の向きは

図Aのように正面に向けて設置すると、壁で反射した音がスピーカーから出てきた音とぶつかり、打ち消し合ってしまう聴こえにくいことがあります。これは部屋の中にできる定在波の影響です。これを避けるため、サブウーファは図Bのように斜めに設置すると効果的です。



定在波の影響で低音が聞こえにくくなる



サブウーファを斜めに設置した例

接続のしかた

接続は必ず各機器の電源を切ってから行ってください。

接続する機器によって接続方法や端子名称が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

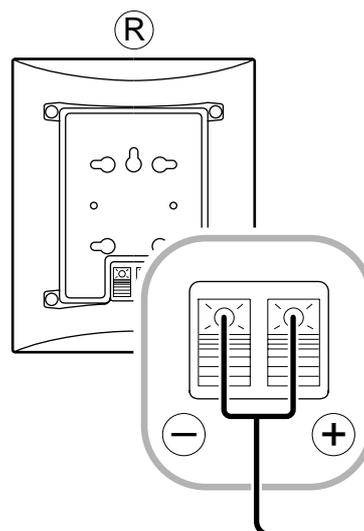
アンプによっては端子の色が異なることがあります。その場合は、極性 (+、-) を確認して接続してください。極性を間違えて接続した場合、不自然な再生音になるばかりでなく、故障の原因となりますので注意してください。

接続が終わったら、正しく配線されているか、もう一度確かめてください。

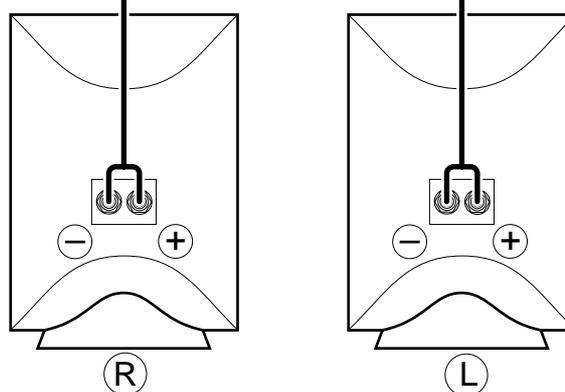
接続1

AVアンプにサブウーファー端子がある場合

エフェクトスピーカ
NS-E103



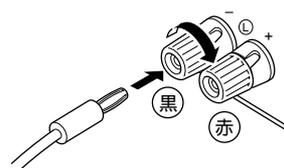
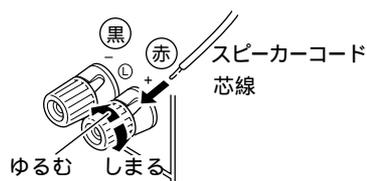
NS-M103
メインスピーカ



メインスピーカ (NS-M103) のつなぎ方

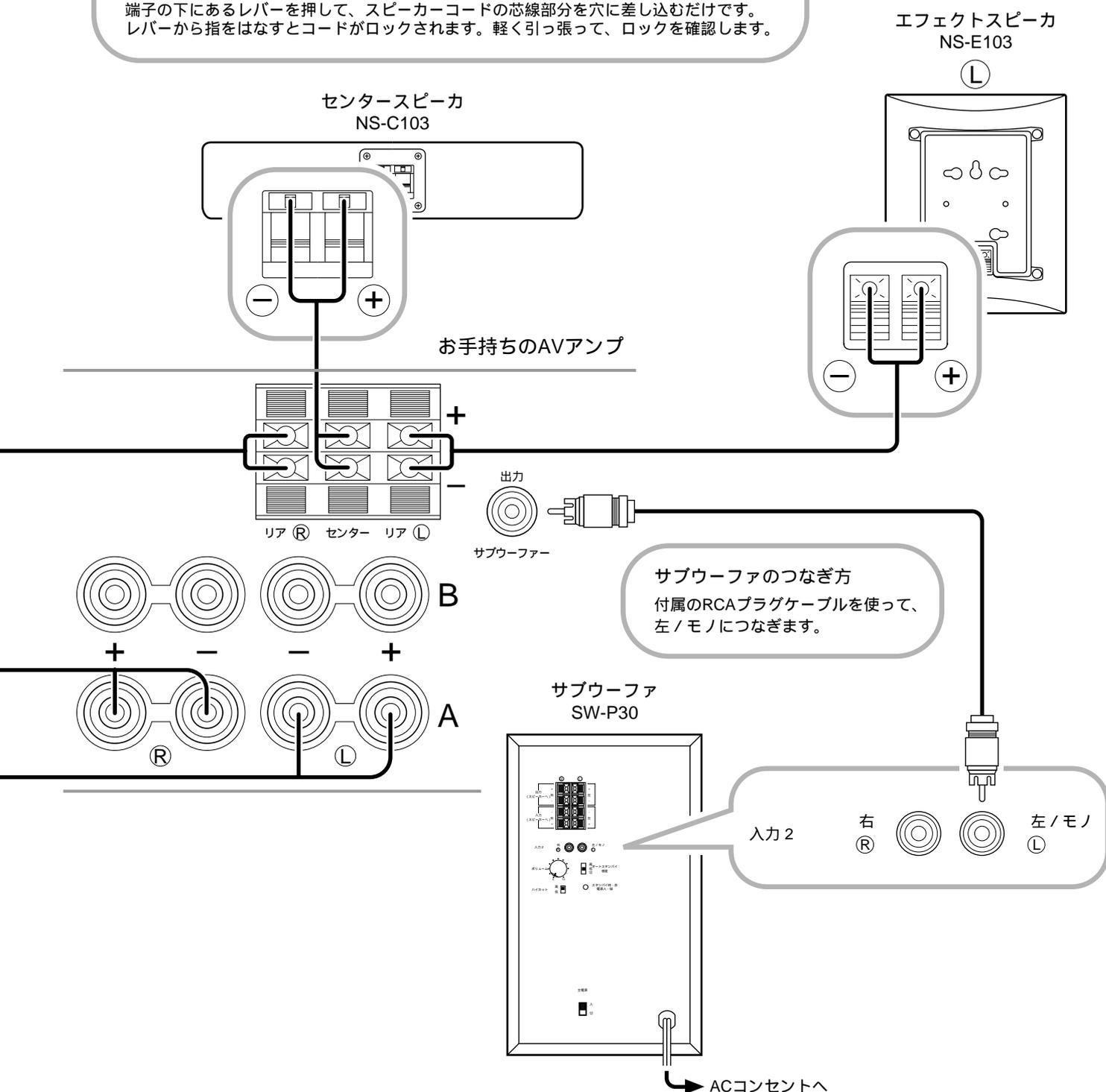
スピーカーコードの芯線部分が端子の外に出ないようにしてください。

市販のパナナプラグを使って接続する場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。



エフェクトスピーカ(NS-E103)のつなぎ方
センタースピーカ(NS-C103)のつなぎ方

端子の下にあるレバーを押して、スピーカーコードの芯線部分を穴に差し込むだけです。
レバーから指をはなすとコードがロックされます。軽く引っ張って、ロックを確認します。



【接続手順】

1. メインスピーカ(NS-M103)をアンプのスピーカー出力端子A(または1)に接続します。
2. エフェクトスピーカ(NS-E103)をアンプのリア(またはサラウンド)スピーカー出力端子に接続します。
3. センタースピーカ(NS-C103)をアンプのセンタースピーカー出力端子に接続します。
4. 付属のRCAプラグケーブルを使って、アンプのサブウーファー出力端子とサブウーファ(SW-P30)の入力2(左/モノ)端子を接続します。
サブウーファ(SW-P30)は付属のスピーカーコードを使ってアンプと接続することもできます。
接続方法は10ページの接続2あるいは11ページの接続3をご覧ください。
5. サブウーファ(SW-P30)の電源プラグを家庭用ACコンセントに接続します。

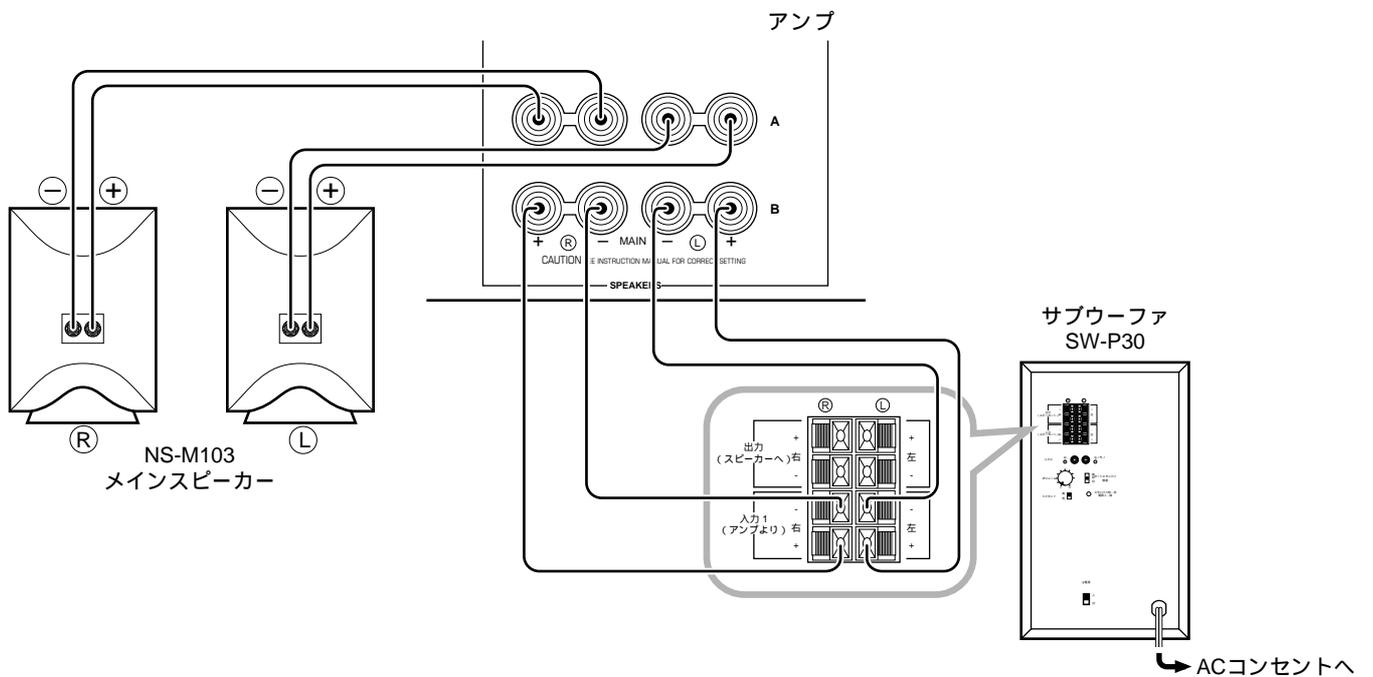
接続2

下図は、メインスピーカーの出力がA(または1)、B(または2)の2系統あり、A+B(または1+2)などのスピーカー切替で両方の端子から出力できるアンプを例に説明しています。

メインスピーカーの出力が1系統または2系統あっても両方から同時に出力できない(A+Bがない)場合は「接続3」をご覧ください。

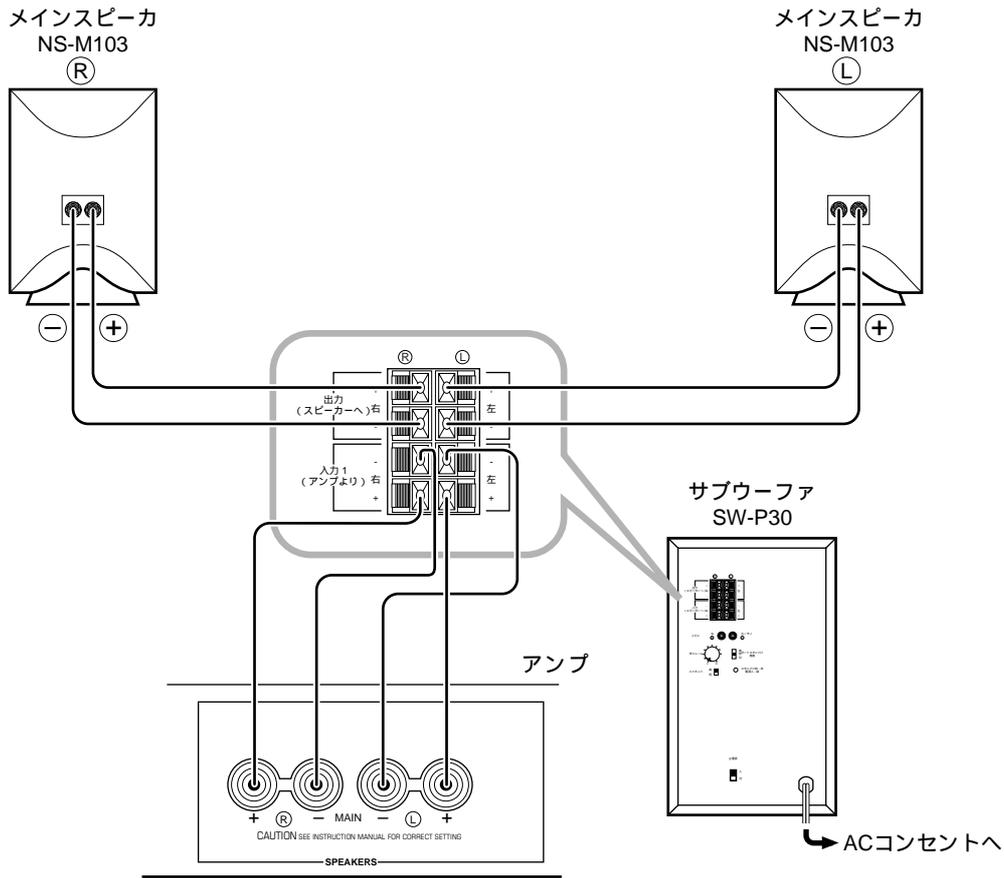
【接続手順】

1. メインスピーカー(NS-M103)をアンプのスピーカー出力端子A(または1)に接続します。
2. アンプのスピーカー出力端子B(または2)とサブウーファ(SW-P30)の入力1端子を接続します。
3. エフェクトスピーカー(NS-E103)、センタースピーカ(NS-C103)の接続は「接続1」と同じです。
4. サブウーファ(SW-P30)の電源プラグを家庭用ACコンセントに接続します。



接続3

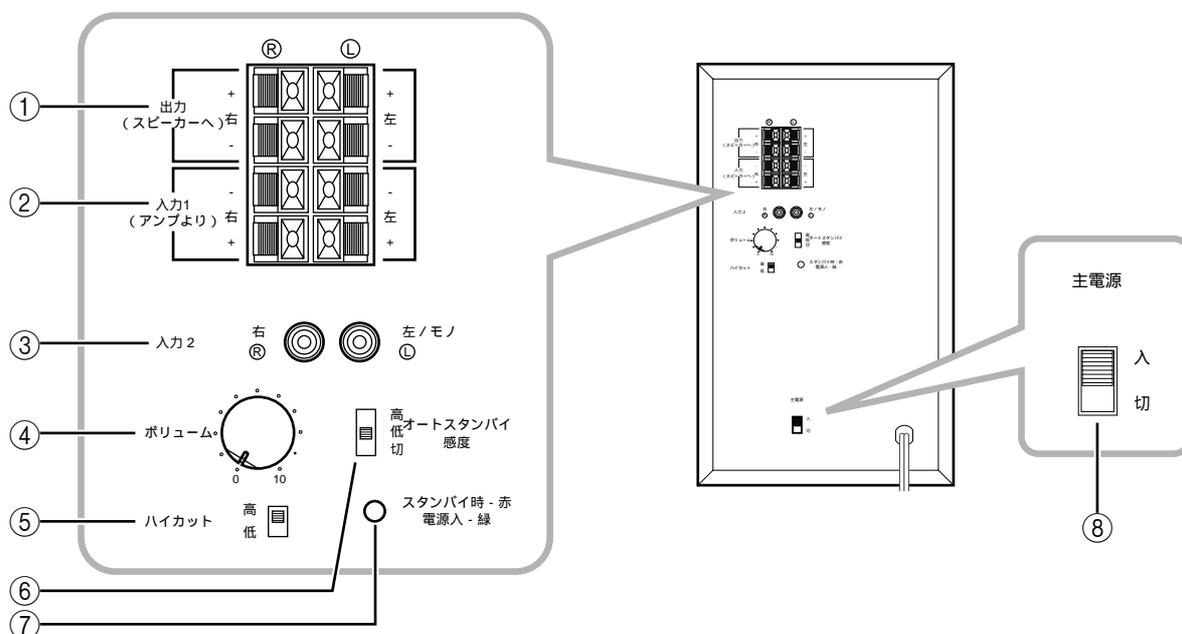
アンプにメインスピーカーの出力が1系統、または2系統あっても両方から同時に出力できない(A+Bがない)場合は下図のようにメインスピーカーをサブウーファー経由で接続します。



【接続手順】

1. アンプのスピーカー出力端子とサブウーファー(SW-P30)の入力1端子を接続します。
2. サブウーファー(SW-P30)の出力端子にメインスピーカ(NS-M103)を接続します。
3. エフェクトスピーカ(NS-E103)、センタースピーカ(NS-C103)の接続は「接続1」と同じです。
4. サブウーファー(SW-P30)の電源プラグを家庭用ACコンセントに接続します。

各部の名称とはたらき(SW-P30 背面)



出力端子【出力】

の入力端子【入力1】へ入力された信号をそのまま出力します。

メインスピーカーを接続する端子です。

入力端子【入力1】

アンプのスピーカー出力の信号を入力する端子です。

入力端子【入力2】

AVアンプのサブウーファー端子またはアンプのライン出力端子(PRE OUTなど)からの信号を入力する端子です。

ボリューム

SW-P30の音量を調節するつまみです。

右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

ハイカットスイッチ

カットする高域の周波数を切り替えるスイッチです。「高」の位置でおよそ200Hz以上がカットされ、「低」ではおよそ100Hz以上がカットされます。好みに合わせ

て切り替えてください。

本システムのNS-M103との組み合わせでは「低」側に合わせると効果的です。

オートスタンバイ / 感度スイッチ

オートスタンバイ機能の入 / 切および感度を切り替えるスイッチです。

オートスタンバイ機能をはたらかせる場合は、「低」または「高」にします。

インジケータ

電源を入れると緑色に点灯します。ただし、オートスタンバイ機能がはたらいているときは赤色に点灯します。

主電源スイッチ

「入」にするとSW-P30の電源が入り、のインジケータが緑色に点灯します。オートスタンバイ機能がはたらいているときはのインジケータは赤色に点灯します。

オートスタンバイ機能

アンプからの信号を検出すると、自動的に電源が入る機能です。また、約10分以上音が出ていない状態が続くと、自動的に電源が切れます。

オートスタンバイ機能がはたらいているときは、インジケータが赤色に点灯しています。赤色に点灯していない場合は、オートスタンバイ / 感度スイッチが「切」になっているか、主電源が「切」になっています。オートスタンバイ機能は、主電源が「入」になっているときにはたらきません。

オートスタンバイ機能は、ある一定の信号レベルの有無により動作します。通常は、オートスタンバイ / 感度スイッチは「低」の位置で使用しますが、電源の入 / 切がしにくい場合は、「高」に切り替えてみてください。「高」にしても改善されない場合は、アンプ側の出力レベルを少し上げてみてください。

使用環境によっては周辺機器からノイズなどの影響を受け、オートスタンバイ機能がはたらいてしまうことがあります。そのようなときは、オートスタンバイ / 感度スイッチは「切」にして、主電源で入 / 切りしてください。

音量バランスの調節

効果的な低音再生をするためにメインスピーカとサブウーファの音が自然につながるように音量バランスを調節します。

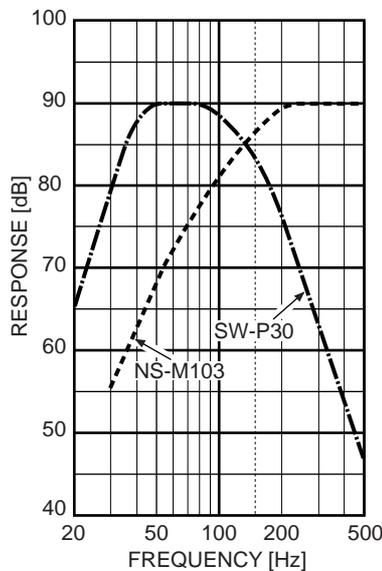
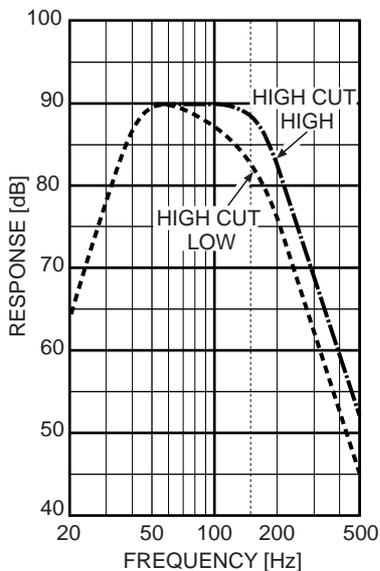
調節は、接続完了後、サブウーファのボリュームとハイカットスイッチで行います。

一度バランスを調節した後は、アンプ側の音量調節だけで全体の音量を調節できます。

【調節手順】

1. アンプの音量を最小にし、アンプおよび各機器の電源を入れます。
2. サブウーファの電源を入れます。
3. 低音を含んでいるソースを再生します。
4. メインスピーカの音量をアンプの音量調節で調節します。通常お聴きになる音量にします。(調節中はアンプのトーンコントロールなどはフラットにしてください。)
5. ハイカットスイッチを「低」にします。
(本システムでは通常ハイカットスイッチは「低」にしますが、使用環境によって切り替えてください。)
6. サブウーファのボリュームを徐々に上げていき、メインスピーカとの音量バランスをとります。
サブウーファがないときよりも若干低音が聴こえるくらいにします。

【周波数特性】



ご注意

アンプのトーンコントロール(BASS, TREBLEなど)やイコライザーを最大にして大出力でご使用になったり、市販のテストディスクなどに入っている20Hz~50Hzのサイン波や特殊な音(電子楽器、レコードプレーヤーの針先のショック音、低音が異常に強調された音など)を連続して大出力で加えることは、スピーカの破損の原因となりますので絶対に行わないでください。また、低音が異常に強調された特殊なディスクでは、本来の音以外に異音が発生する場合があります。これは、スピーカユニット自身の限界を越えた“バタ付き”現象で故障ではありません。そのようなときは、音量を下げてご使用ください。

故障かなと思ったら

下の表にしたがってもう一度確かめてみてください。そのうえで正常に動作しないあるいは下記以外の何か異常が認められる場合は、SW-P30の電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお問い合わせの上サービスをご依頼ください。

| 症 状 | 原 因 | 処 置 |
|-----------------|---|--|
| SW-P30の電源が入らない。 | 電源プラグがコンセントから抜けている。 SW-P30の主電源が入っていない。 | 電源プラグをコンセントに差し込む。 主電源を「入」にする。 |
| オートスタンバイ機能が働かない | オートスタンバイ感度スイッチが「切」になっている。 アンプからの入力信号が小さすぎる。 | オートスタンバイ感度スイッチを「低」または「高」にする。 アンプやアンプに接続した機器の音量を上げる。 |
| 音がでない。 | 接続が正しくされていない。または接触が不完全。 SW-P30のボリュームが最小(0)になっている。 アンプからの入力信号が小さすぎる。 | 接続を確認する。または別のコードを使ってみる。 ボリュームを右に回して音量を上げる。 アンプやアンプに接続した機器の音量を上げる。 |
| 音が割れる。 | 入力信号が大きすぎる。 | アンプやアンプに接続した機器の音量を下げる。 |
| 音が小さい。 | スピーカーコードの接続が逆相になっている。 | L、R、+、-の接続を確認する。 |
| 低音が出ない。または小さい。 | 低音域が少ないソースを再生している。 SW-P30のハイカットスイッチが「低」になっている。 定在波の影響を受けている。 | 低音域の入っているソースを再生する。 SW-P30のハイカットスイッチを「高」にする。 SW-P30の設置位置や視聴ポジションを変えてみる。 |

仕様

メインスピーカ(NS-M103)

| | |
|----------------------------|----------------------------|
| タイプ | 2way密閉 防磁型(EIAJ) |
| スピーカユニット ウーファー ツイーター | 12 cmコーンタイプ 2.2 cmセミドーム |
| 許容入力 | 40 W |
| 最大許容入力 | 120 W |
| 入力インピーダンス | 6 |
| 再生周波数帯域 | 65 Hz ~ 20 kHz (- 10dB) |
| 出力音圧レベル | 90 dB / W・m |
| 寸法(幅×高さ×奥行き) | 170 × 255 × 189 mm |
| 重量 | 2.1 kg / 1台 |
| 付属品 | スピーカーコード(4 m) × 2 |

センタースピーカ(NS-C103)

| | |
|----------------------------|--------------------------------------|
| タイプ | 2 wayバスレフ 防磁型(EIAJ) |
| スピーカユニット ウーファー ツイーター | 8 cmコーンタイプ × 2 2.2 cmセミドーム |
| 許容入力 | 40 W |
| 最大許容入力 | 120 W |
| 入力インピーダンス | 6 |
| 再生周波数帯域 | 65 Hz ~ 20 kHz (- 10dB) |
| 出力音圧レベル | 89 dB / W・m |
| 寸法(幅×高さ×奥行き) | 435 × 100 × 230 mm |
| 重量 | 2.0 kg |
| 付属品 | スピーカーコード(4 m) × 1、 すべり止めテープ × 2 |

エフェクトスピーカ(NS-E103)

| | |
|----------------------|---------------------------|
| タイプ | フルレンジバスレフ 防磁型(EIAJ) |
| スピーカユニット | 10 cmコーンタイプ |
| 許容入力 | 25 W |
| 最大許容入力 | 80 W |
| 入力インピーダンス | 6 |
| 再生周波数帯域 | 70 Hz ~ 20 kHz (- 10dB) |
| 出力音圧レベル | 90 dB / W・m |
| 外形寸法 (幅×高さ×奥行き) | 180 × 220 × 101 mm |
| 重量 | 1.4 kg / 1台 |
| 付属品 | スピーカーコード(10 m) × 2 |

サブウーファ(SW-P30)

| | |
|-------------------------|--|
| タイプ | アクティブサーボテクノロジー方式 防磁型 |
| スピーカユニット | 16 cmコーンタイプ、防磁型 |
| アンプ出力 | 40 W + 40 W (100 Hz、4 、10% T.H.D.) |
| カットオフ周波数 | 100 Hz、200 Hz (低、高) |
| 入力感度 入力1 入力2 | 1.5 V (100 Hz、40 W / 4) L + R 60 mV (100 Hz、40 W / 4) L + R |
| 入力インピーダンス 入力1 入力2 | 4.7 k 10 k |
| 再生周波数帯域 | 32 Hz ~ 240 Hz (- 10 dB) |
| 定格電源電圧 | AC100 V、50/60 Hz |
| 定格消費電力 | 30 W |
| 外形寸法 (幅×高さ×奥行き) | 210 × 350 × 312 mm |
| 重量 | 7.4 kg |
| 付属品 | スピーカーコード(4 m) × 2 RCAプラグケーブル(3 m) × 1 |

仕様および外観は予告なく変更することがあります。

音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会
「音のエチケット」
キャンペーンのシンボルマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮(おもいやり)を十分にいたしましょう。ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には特に気を配りましょう。窓を締めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を未永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

保証期間

お買上げ日より1年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

修理料金の仕組み

技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は、通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を未永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ポリウムコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

お客様ご相談センター

(ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口)

TEL(03)5488-5500

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

営業部 TeL(053)460-3451

品質保証室 TeL(053)460-3405

住所および電話番号は変更になることがあります。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持込窓口

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50
ヤマハセンター内
TeL(011)512-6108

仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7
仙台卸商共同配送センター3F
TeL(022)236-0249

首都圏 〒211-0025 川崎市中原区木月1184
TeL(044)434-3100

東京 (お持込修理のみお取扱い)
〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11
TeL(03)5488-6625

浜松 〒435-0048 浜松市上西町911
ヤマハ(株)宮竹工場内
TeL(053)465-6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TeL(052)652-2230

大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ(株)千里丘センター内
TeL(06)877-5262

四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
TeL(087)822-3045

広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14
TeL(082)874-3787

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TeL(092)472-2134

愛情点検



永年ご使用の本機の点検を!

こんな症状はありませんか?

電源コード・プラグが異常に熱い。
コゲくさい臭いがする。
電源コードに深いキズが変形がある。
製品に触れるとビリビリと電気を感ずる。
電源を入れても正常に作動しない。
その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。